

### 進むキャッシュレス社会

サウジ政府は Vision 2030 のプログラムの 1 つとして「キャッシュレス比率の引き上げ」を掲げており、2025 年までに取引の 70% をキャッシュレス化することを目指している（2019 年 7 月末時点：36%）。その実現に欠かせないのが 2015 年にサービスを開始した、サウジ通貨庁の配下にある Saudi Payment が開発・管理する「mada」の決済ネットワークである。国内でのデビットカードとプリペイドカード決済は全てこちらで一元管理されており、

全ての銀行キャッシュカードに付いている「mada」のマーク



(HP) <https://www.mada.com.sa>

利用者が海外で使用する際には、共同ブランド化されている Visa や Master card での支払いが可能となる。POS 端末によるキャッシュレス決済を可能にする「mada」のマークは各銀行で発行されたキャッシュカードに必ず付与されており、街中のほとんどの店でカード決済ができる。IC チップによる読込のためスキミングされる恐れも少ない。ネット決済も 2 段階認証を採用しており、登録された電話番号にワンタイムパスワードが記載された SMS が届き、それらを入力する事で最終的な決済を完了させる仕組みだ。使用すると即座に SMS が届くので安全性・利便性が非常に高いと言える。消費者のみならず、各店舗にとってもカード会社毎に POS 端末を使い分ける必要がないなどの利点がある。国主導で決済を一元管理するこの政策は中国の「銀聯」と同じ手法であり、その後他の東南アジア諸国が仕組みを真似ている。日本はキャッシュレス決済の種類が豊富であるが、サウジではこの「mada」マーク付のカードが 1 枚あればどこでも支払ができ、シンプルかつ効率的である。当地の金融関係者も目を見張るほど中東ではトップレベルの仕組みのようだ。

### キャッシュレスを支える若者世代

サウジの人口は全体の 70% を 40 歳未満の若年層が占めており、他の湾岸諸国と比較しても高い割合にある。また、海外への留学生が世界で 14 番目に多い（2019 年時点）という結果が示す通り、高等教育を受けグローバルな視野を持つサウジの若者は、金融リテラシーに加えデジタル技術にも精通しているため、キャッシュレス社会に与えている影響が大きい事が伺える。

また、1 枚あればどこでも決済が出来る利便性がサウジ国民の個人消費を刺激しており、今後更なる市場の拡大が見込まれる。一方、各銀行もデジタル化を進めており、2021 年 12 月末の ATM 台数は 2020 年比 10% 近く減少。新型コロナウイルスが非接触型の決済を後押しした事で、キャッシュレス化は更に加速した。キャッシュレス経済を推進する 3 つの柱として「デジタルと金融のリテラシー向上」、「インターネット・決済インフラの開発」、「健全かつ革新的なフィンテック・エコシステム」が掲げられているが、キャッシュレス比率 70% という大きな目標に向け、新たな技術・仕組みの導入と共に、若者世代による個人消費の活発化が期待される。（2022 年 3 月）

### お問合せ先

日・サウジ・ビジョンオフィス・リヤド

Address: 5th Floor, Council of Saudi Chamber Building, Riyadh 11614

Tel: +966-11-219-9155 E-mail: [infovo@sj-visionoffice.jetro.go.jp](mailto:infovo@sj-visionoffice.jetro.go.jp)

Website: <https://www.jetro.go.jp/sj-visionoffice/>